



2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2025年11月6日

上場市場：東証スタンダード市場
証券コード：9083





2026年 3 月期 第 2 四半期(中間期)決算



2026年 3 月期 業績予想



株主還元



2026年 3 月期 第 2 四半期(中間期)決算

2026年3月期中間期は、主要事業である自動車運送のうち一般路線バスの運賃改定や、大阪・関西万博などのイベントに伴う需要を捉えたことで、売上高・営業利益とも大きく増加し、前年同期比で増収（売上高 +8.2%）・増益（営業利益 +108.7%、中間期純利益 +112.7%）となった。

自動車運送 (乗合バス事業)	・路線バスは、2024年10月からの運賃改定が寄与。また、中距離路線の増便で特に通勤需要の取り込みや、4月にオープンした「GLION ARENA KOBE」のシャトル輸送などにより、輸送人員が増加。 ・高速バスは、大阪・関西万博へのアクセスバス「EXPO号」が好評であったことや、三ノ宮～淡路島・四国線の増便により、輸送人員が増加。
不動産	・賃貸は、新たに取得した収益物件の賃料増があったものの、大型商業施設の改装に伴う一時解約などにより、賃貸料収入が減少。 ・建設は、工場など大規模な新築工事の引き渡しなどにより、売上が増加。
旅行貸切	・旅行は、大阪・関西万博ツアーやチャータークルーズなどの開催により、取扱高・集客数ともに増加。 ・貸切バスは、大阪・関西万博シャトルバスの受注や日車収入の増加により、運送収入・稼働数ともに増加。

2026年3月期 中間期業績（連結）

(百万円)	2026年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	26,358	24,355	+2,003	+8.2%
営業利益	※11,259	603	+655	+108.7%
経常利益	※11,316	681	+634	+93.2%
経常利益率	5.0%	2.8%	+2.2pt	—
親会社株主に帰属する中間純利益	894	420	+474	+112.7%
1株当たり中間純利益	※274.15円	※234.90円 (69.81円)	+39.25円	+112.5%

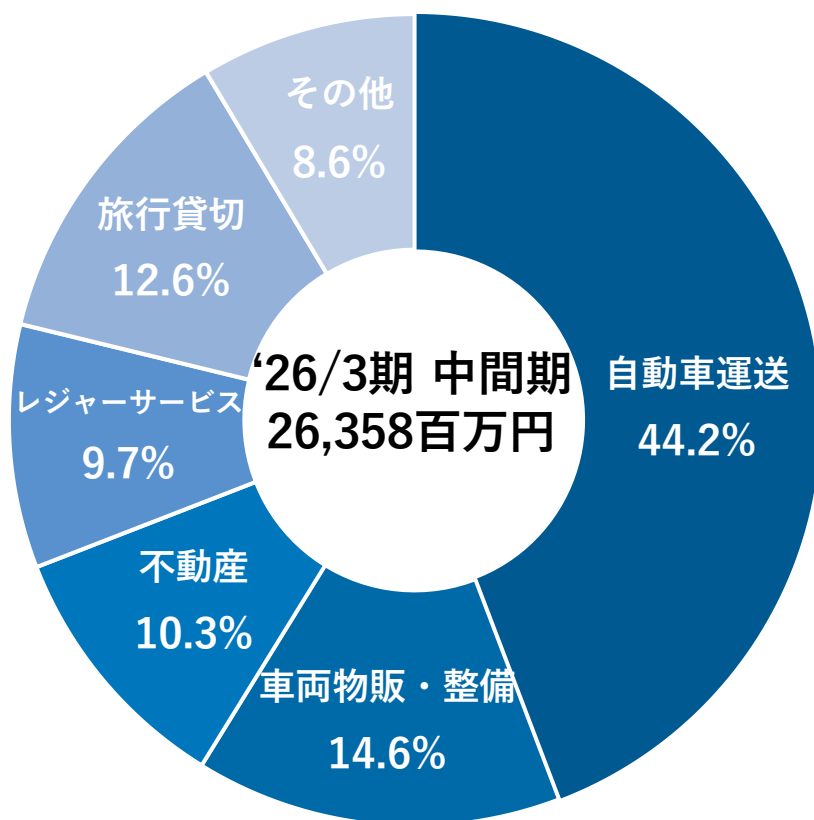
※1当期より有形固定資産「車両」の減価償却方法を、定率法から定額法に変更したことと、耐用年数を変更したことで、各項目の利益が従来の方法・年数と比較して288百万円増加。

※22025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定。（ ）内は株式分割前の数値を表示。

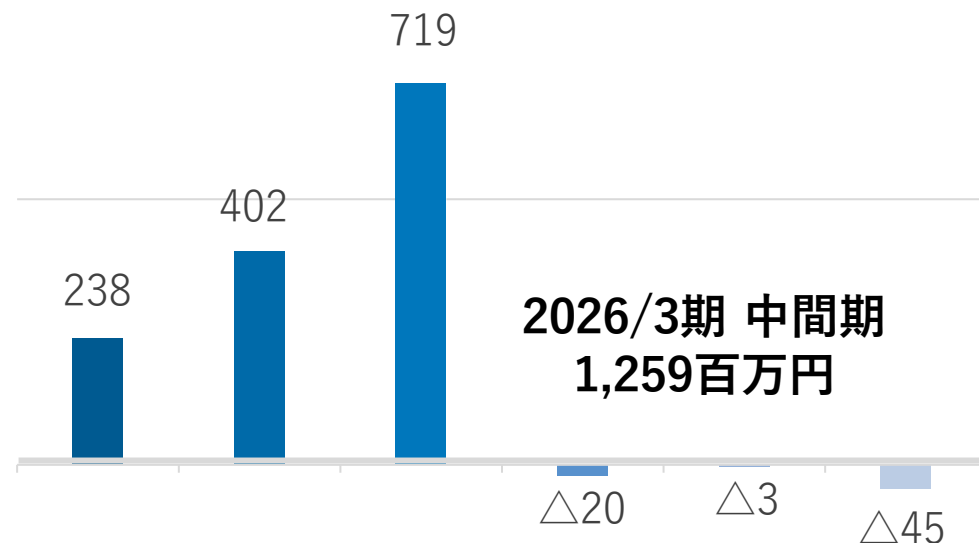
2026年3月期 中間期業績（セグメント別）

(百万円)	2026年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	26,358	24,355	+2,003	+8.2%
自動車運送	11,658	10,587	+1,070	+10.1%
車両物販・整備	3,847	3,775	+71	+1.9%
不動産	2,717	2,376	+340	+14.3%
レジャーサービス	2,553	2,273	+280	+12.3%
旅行貸切	3,331	2,992	+339	+11.3%
その他	2,250	2,348	△98	△4.2%
営業利益	1,259	603	+655	+108.7%
自動車運送	238	△302	+541	—
車両物販・整備	402	391	+11	+2.8%
不動産	719	673	+45	+6.8%
レジャーサービス	△20	△19	△0	—
旅行貸切	△3	△39	+36	—
その他	△45	△69	+24	—
(セグメント間取引消去)	△32	△29	△2	—

売上高構成比（単位：％）



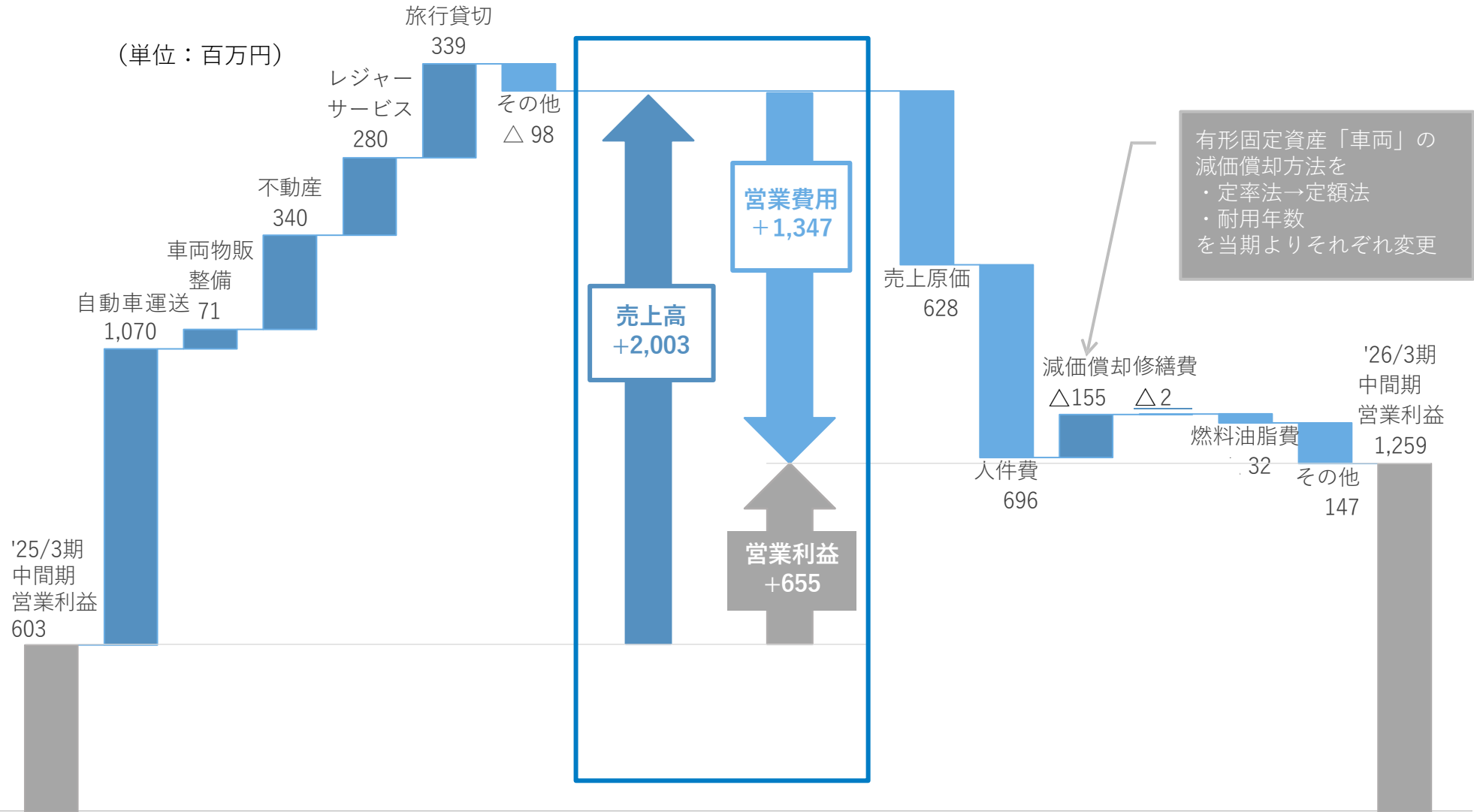
営業利益（単位：百万円）



自動車運送 車両物販・整備 不動産 レジャーサービス 旅行貸切 その他

※セグメント間取引消去額（△32百万円）はグラフに含まれていない。

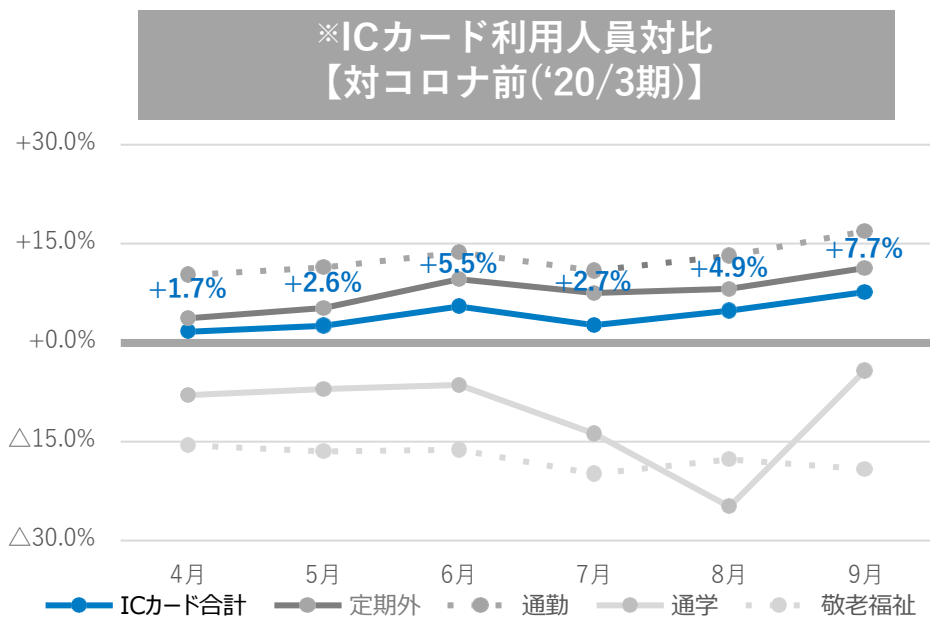
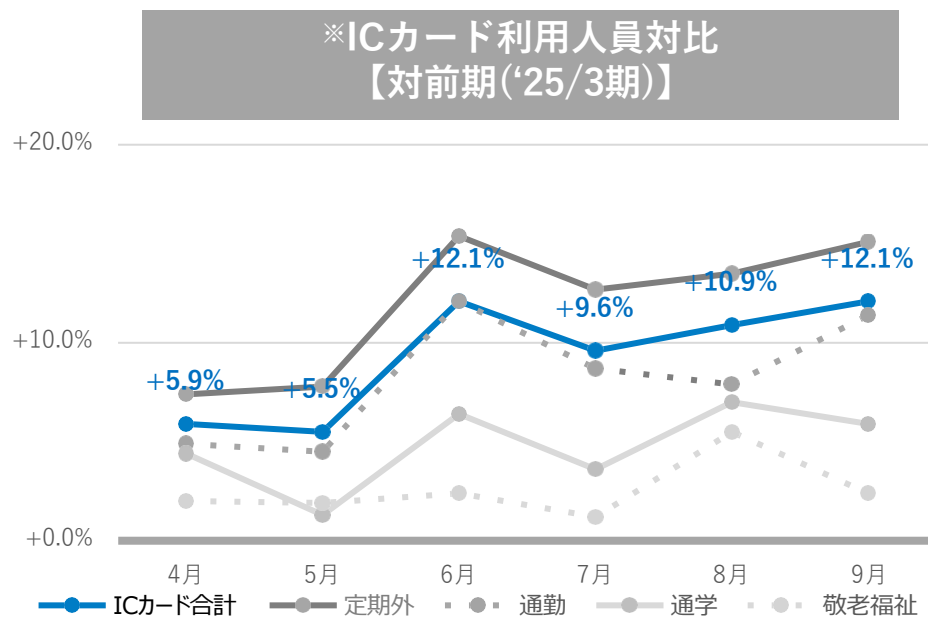
営業利益 増減要因



路線バスでは、2024年10月からの運賃改定、神戸市バスとの共同運行路線の拡大、通勤利用者の回復などにより増収

4月にオープンした「GLION ARENA KOBE」に対応したバス停の新設やイベント開催時の臨時運行により需要を獲得

(百万円)	2026/ 3 期			2025/ 3 期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	5,769	5,889	11,658	5,347	5,240	10,587	+1,070	+10.1%
営業利益	140	98	238	△93	△208	△302	+541	—



※ICカード利用人員には中距離線・EXPO号の利用人員を含む

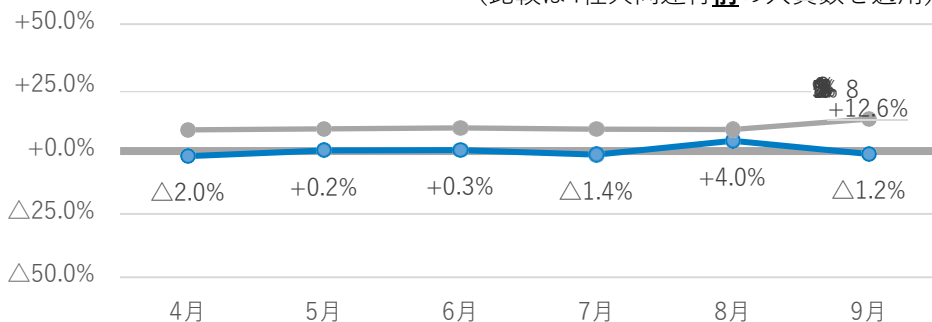
高速バスでは、増便した淡路島・四国・中国線を中心に需要が増加

大阪・関西万博へのアクセスバス「EXPO号」は、当中間期の利用者が約47万人を超え、増収の大きな要因に（利用者数は前頁の「ICカード利用人員対比」に反映）

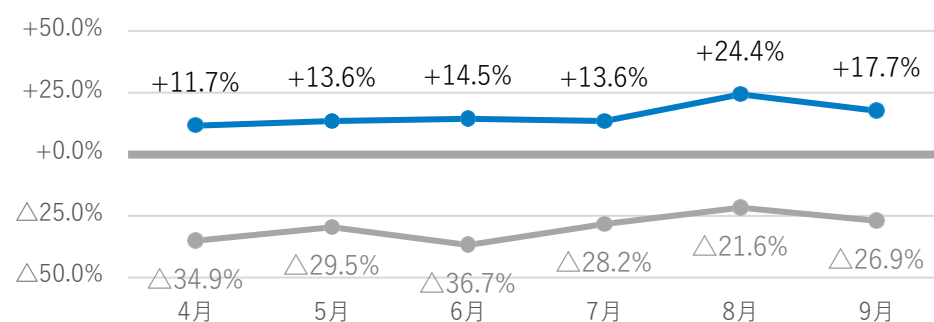
高速バス 方面別利用人員対比 【対前期（'25/3期）・対コロナ前（'20/3期）】

【淡路島線】

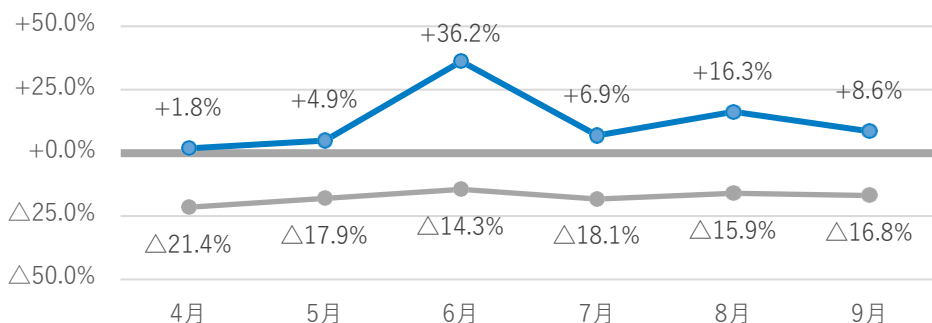
2023年4月より淡路島線の4社共同運行を開始
（比較は4社共同運行前の人員数を適用）



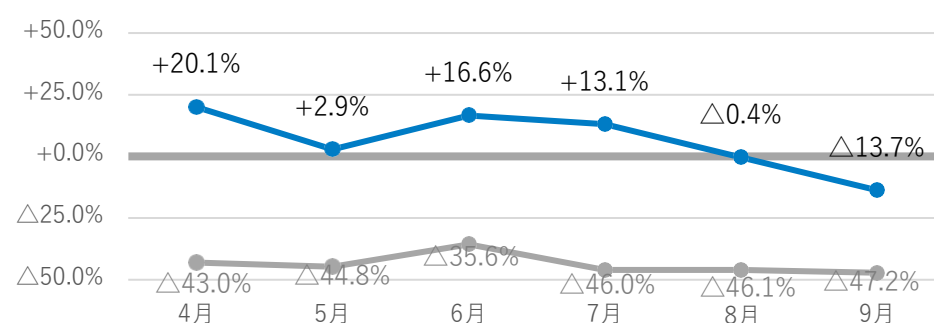
【四国・中国線】



【中国ハイウェイ線】



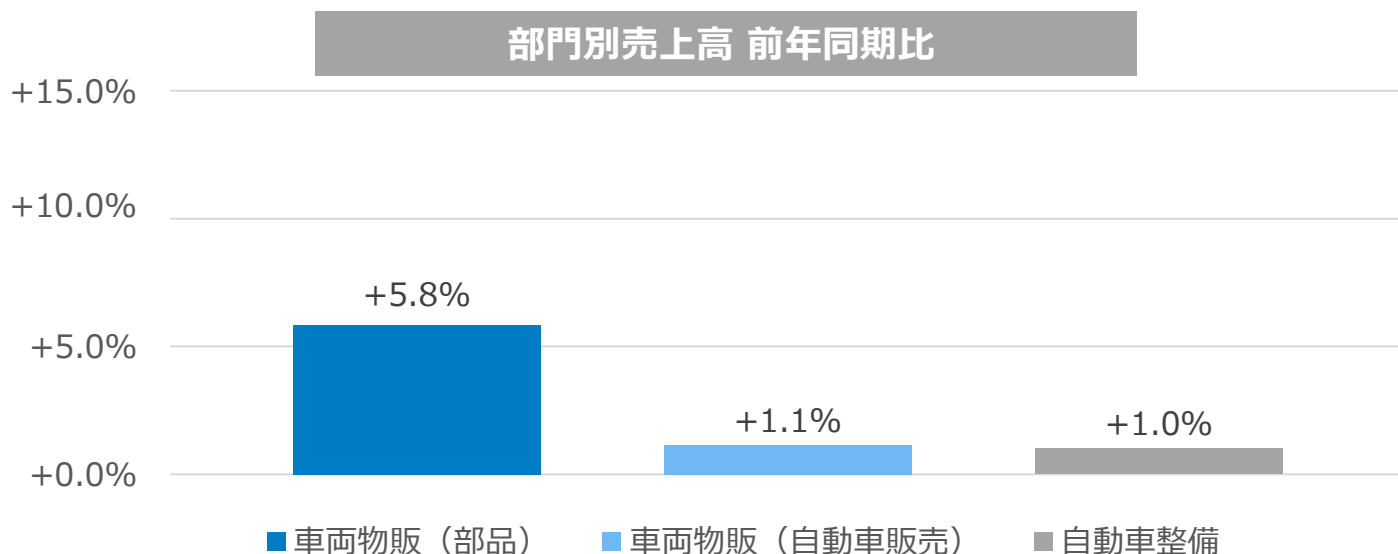
【空港リムジン・東京線など】



対2025/3期 対2020/3期

- 車両物販（部品）では、車両使用年数の長期化に伴う整備部品の出荷増や、部品価格の見直しなどにより増収
- 車両物販（自動車販売）では、大型トラックなどの高額車両販売が寄与し増収
- 整備では、車検整備台数が増加（前年同期比+3.1%）や、整備に関する工賃単価（レバレート）の見直しなどにより増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	1,924	1,923	3,847	1,806	1,969	3,775	+71	+1.9%
営業利益	208	194	402	182	209	391	+11	+2.8%

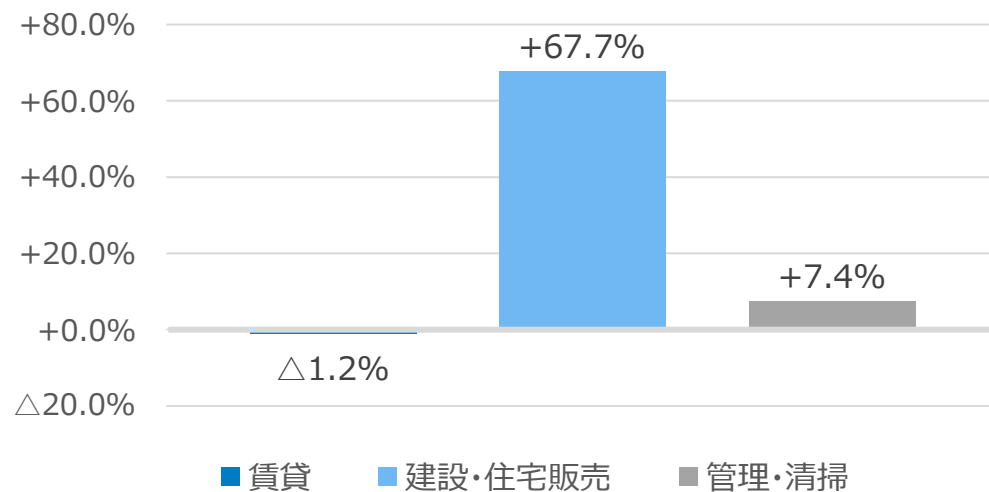


- 賃貸では、2025年1月竣工の※1学生向けマンション(愛媛県)の賃料増はあったものの、郊外型大型商業施設の改装に伴う一時解約により減収
- 建設・住宅販売では、金属系工場(姫路市)や障害者支援施設(姫路市)の竣工など大型工事により大きく増収
- 管理・清掃では、誘導業務や警備業務の新規受注などにより増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	1,459	1,258	2,717	1,090	1,286	2,376	+340	+14.3%
営業利益	366	353	719	308	364	673	+45	+6.8%

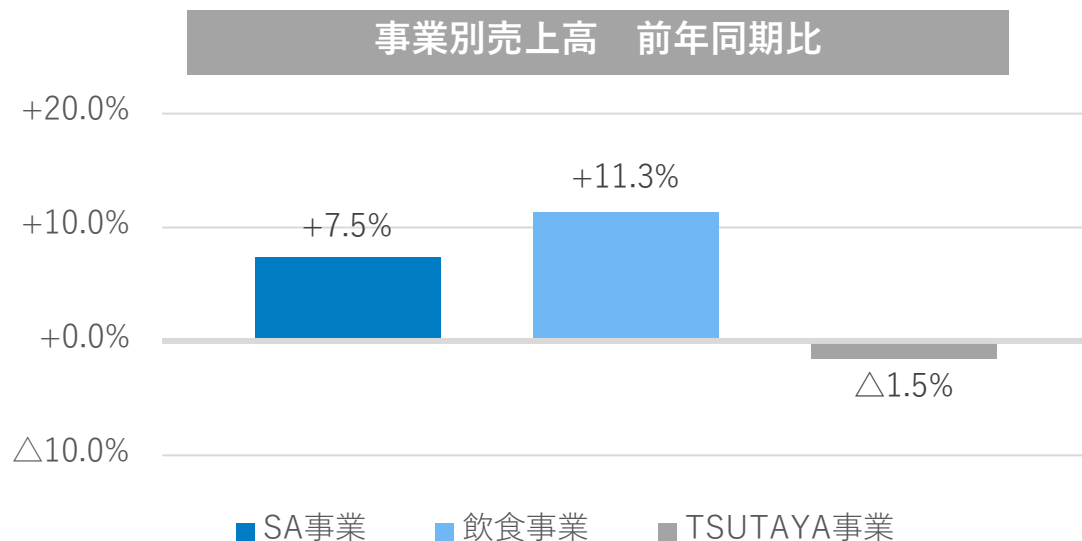


※1グランネクス松山高砂町
(’25/1竣工)



- サービスエリア（SA）事業では、大阪・関西万博への移動需要もあり、来店者数・客単価ともに増加
- 飲食店は、不採算店を閉鎖したものの、4月大阪難波にオープンした「豚と炭火。こぶた家」および「株式会社与太呂」を新たに連結の範囲に含めたことで増収
- TSUTAYAは、物販（ガシャポン・トレカなど）・ネイルサロンで増収を図るが、書籍・レンタル収入の減少分を賄えず減収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	1,204	1,349	2,553	1,083	1,189	2,273	+280	+12.3%
営業利益	△30	10	△20	△20	1	△19	△0	—

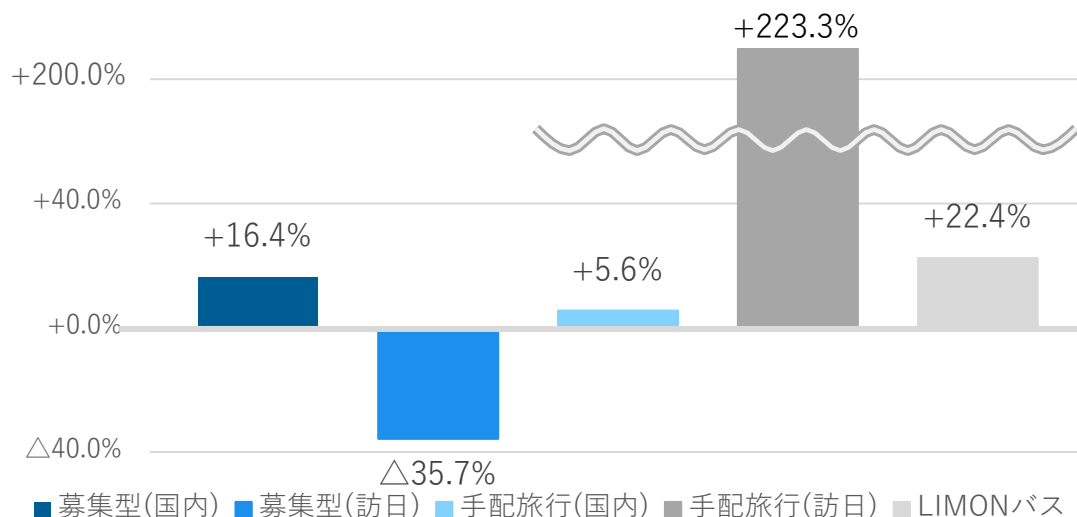


上質な豚料理を提供する「豚と炭火。こぶた家」OPEN

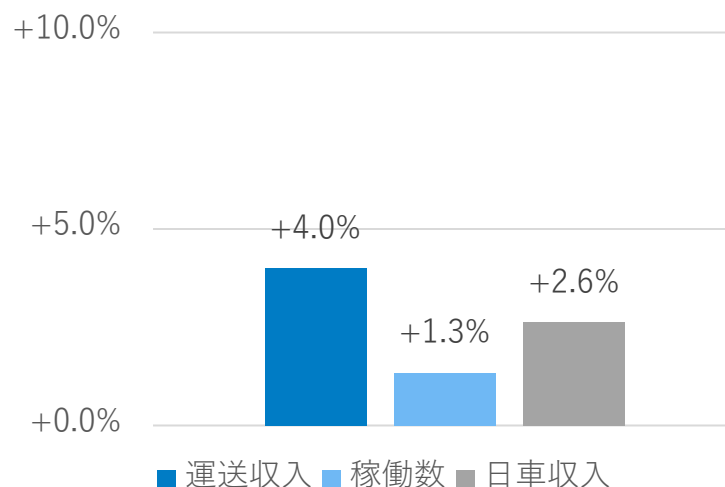
- 旅行（国内）は、大阪・関西万博ツアーやにっぽん丸チャータークルーズ3日間の開催などにより増収
- 旅行（インバウンド）は、FIT向け東京・京都の各日帰りツアーが競合で苦戦したが、手配旅行にも注力し、ツアー減少分を補う
- 貸切バスは、大阪・関西万博のシャトルバス受注や稼働数・日車収入を確保できたことにより増収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	1,682	1,649	3,331	1,580	1,411	2,992	+339	+11.3%
営業利益	△13	10	△3	27	△67	△39	+36	—

旅行取扱 前年同期比較



貸切バス稼働 前年同期比較



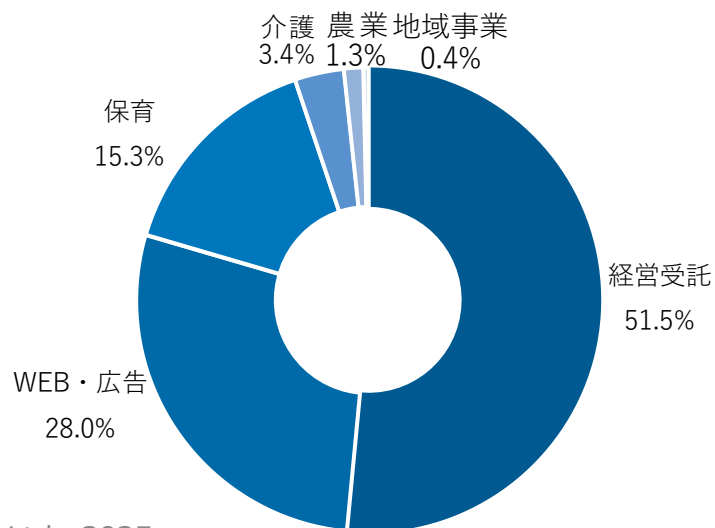
■ 経営受託（公共施設管理）は、指定管理料の増額などにより増収

■ WEB・広告は、各種制作物の減少により減収

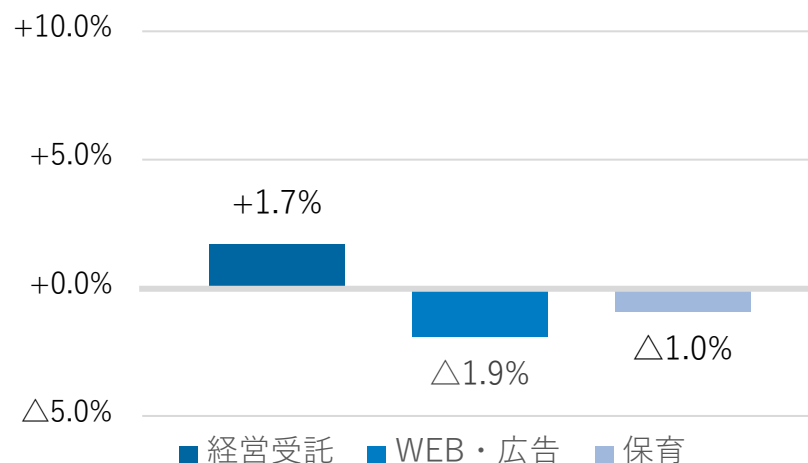
■ 2024年11月に農業事業の小売店舗5店舗を閉鎖したことにより減収

(百万円)	2026/3期			2025/3期			前年同期比	
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	増減額	増減率
売上高	1,120	1,130	2,250	1,159	1,189	2,348	△98	△4.2%
営業利益	0	△45	△45	△27	△42	△69	+24	—

その他事業 売上高構成比



主なその他事業別売上高 前年同期比較



連結貸借対照表

(単位：百万円)	2025年3月末	2025年9月末	増減額	主な要因
流動資産	14,364	12,125	△2,238	
現預金	5,929	5,471	△457	姫路本社ビルの支払いなど
売掛金	6,358	4,128	△2,229	運行補助金の回収など
その他	2,077	2,526	+449	仕掛品の増
固定資産	52,709	56,183	+3,473	
有形固定資産	43,655	45,805	+2,150	姫路本社ビル取得など
その他	9,054	10,377	+1,323	株式時価評価などによる増
資産合計	67,073	68,309	+1,235	
負債	17,610	17,526	△84	
有利子負債	3,560	3,097	△462	借入返済による減
未払金	3,397	3,311	△86	
その他	10,652	11,116	+464	賞与引当金の増
純資産	49,463	50,783	+1,319	
負債純資産計	67,073	68,309	+1,235	
※Net Cash	2,368	2,373	+4	

※Net Cash=期末現預金－期末有利子負債残高

自己資本比率74.3%

前年同期と比較して、営業CFは収支改善により増加するも、投資CFは固定資産の購入により増加し、結果としてFCFは減少

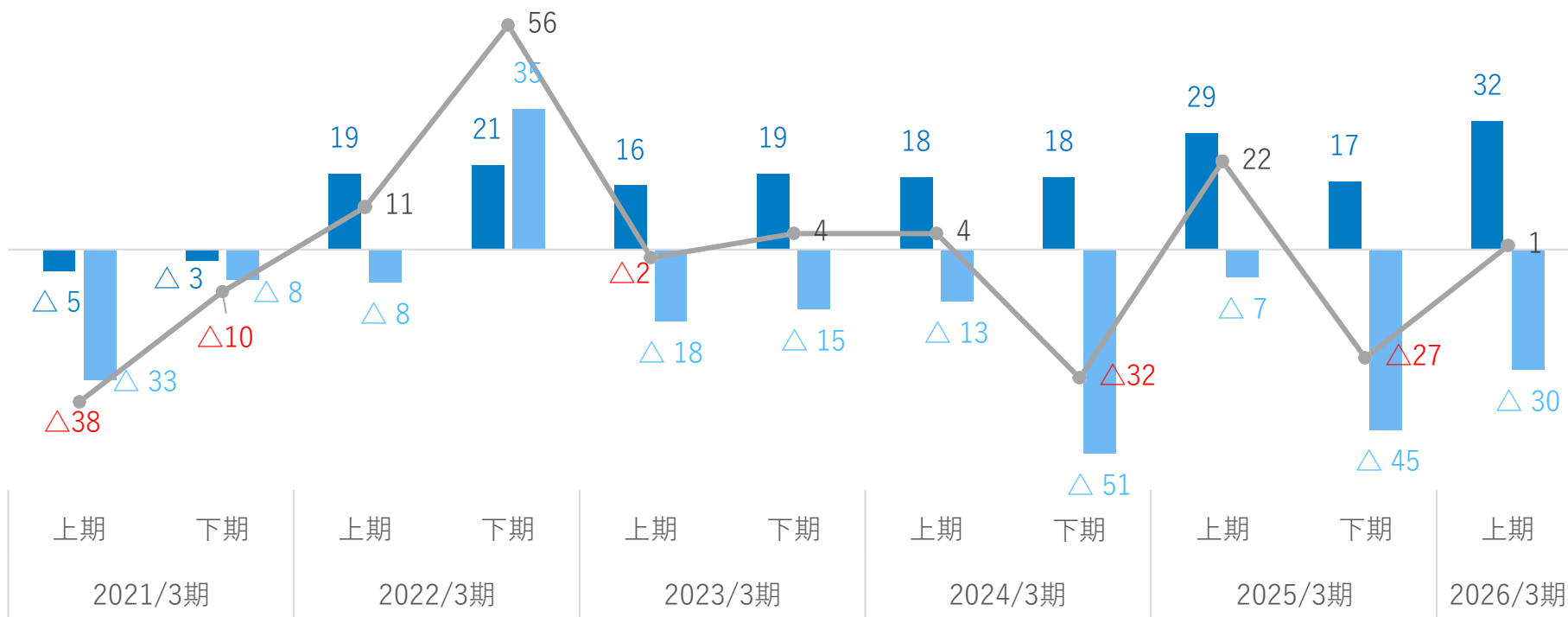
キャッシュフロー推移

(単位：億円)

■ 営業キャッシュフロー

■ 投資キャッシュフロー

—●— FCF

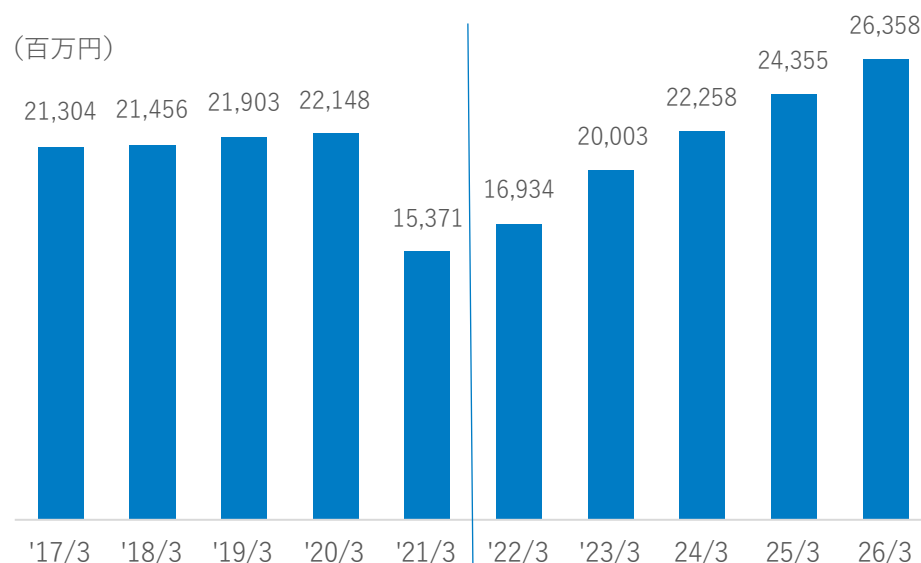


*FCF=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

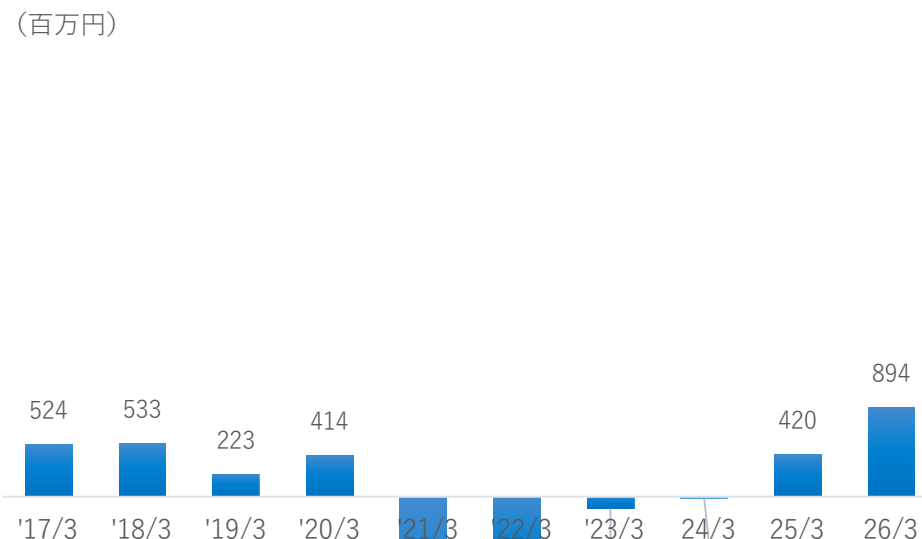
売上高は、コロナ禍前(2020/3期)を上回る水準であり過去最高を更新

経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益について、黒字幅を前期同期間から大きく伸ばし過去最高を更新

売上高



親会社株主に帰属する中間純利益



※「収益認識に関する会計基準」を適用
'21/3期以前は、新たな表示方法による組替えを行っていない。



2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想

■ 上期において、大阪・関西万博効果により自動車運送を中心に業績が予想を上回ったことや、燃料費が想定を下回って推移していることなどを加味し業績を修正

※2025年5月9日発表の業績予想から修正

(百万円)	2026年3月期 業績予想 (11月6日開示)	2026年3月期 業績予想 (5月9日開示)	業績予想 増減額	2025年3月期 実績	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	55,700	54,900	+800	52,954	+2,746	+5.2%
営業利益	3,920	3,500	+420	3,474	+446	+12.8%
経常利益	4,090	3,620	+470	3,729	+361	+9.7%
経常利益率	7.3%	6.6%	+0.7pt	7.0%	+0.3pt	—
親会社株主に帰属する当期純利益	2,710	2,390	+320	2,471	+239	+9.6%
1株当たり当期純利益	224.72円	※1198.18円 (396.37円)	+26.54円	※1204.94円 (409.89円)	+19.78円	+9.7%

※1当該株式分割が行われたと仮定して算定。()内は株式分割前の数値を表示。

(百万円)	2026年3月期 予想（11/6開示）	2025年3月期 実績	実績比	
			増減額	増減率
売上高	55,700	52,954	+2,746	+5.2%
自動車運送	25,510	24,137	+1,373	+5.7%
車両物販・整備	11,020	10,392	+628	+6.0%
不動産	7,600	6,825	+775	+11.4%
レジャーサービス	5,000	4,540	+460	+10.1%
旅行貸切	7,380	6,635	+745	+11.2%
その他	4,730	4,788	△58	△1.2%
（調整額）	△5,540	△4,365	△1,175	—
営業利益	3,920	3,474	+446	+12.8%
自動車運送	1,800	1,423	+377	+26.5%
車両物販・整備	900	875	+25	+2.9%
不動産	1,400	1,430	△30	△2.1%
レジャーサービス	△80	△44	△36	—
旅行貸切	110	△68	+178	—
その他	△130	△102	△28	—
（調整額）	△80	△40	△40	—



自動車運送

○路線バス

「GLION ARENA KOBE」シャトルバスや神戸空港アクセスバスを増強

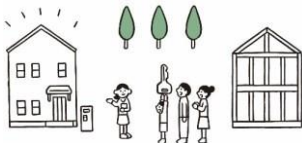
○高速バス

京都～三田線の新設や既存線（三ノ宮～淡路島・四国線、関空・伊丹空港線など）の増便



不動産

愛媛県学生マンションなどの新規取得による賃料増
戸建住宅・分譲地の販売増
賃貸物件の修繕費増



旅行貸切

インバウンドツアーは競合が激化と想定
国内ツアーは堅調に推移
運転士の不足が継続的な課題



車両物販・整備

基本工賃(レバレート)や部品価格の見直しなどにより売上・利益が増加



レジャーサービス

飲食の新規出店を2店舗実施予定

「TSUTAYA」は、物販・ネイルサロンを強化

「AWAJI EARTH MUSEUM」の収入が通期寄与するも弱含み



その他

経営受託の指定管理料の増額
従業員の処遇改善による人件費増

○本社の2拠点化（姫路・神戸）について

100周年事業の一環として、『グループ構想2030』に対応するため本社の2拠点化を実施

- ・神戸本社は2025年1月に神戸三宮で開設【前期に移転費用を計上】
- ・姫路本社は2025年12月に新築しへ移転【今期に移転費用を計上】



株主還元

■ 中間は当初予想の1株当たり40円を配当

■ 投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を目的に、2025年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施

■ 当社の株主還元方針に基づき、 期末は当初予想の1株当たり20円を配当予定

配当状況（実績）および今期の配当予想

（円）	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	※ ² 2026/3期 予想	※ ³ 対前期比
1株当たり当期純利益	△359.94	354.90	293.30	373.72	409.89	224.72 (449.44)	+39.55
1株当たり配当金	17.50	35.00	※ ¹ 40.00	40.00	60.00	— (80.00)	+20.00
配当性向	—	9.9%	13.6%	10.7%	14.6%	17.8%	+3.2pt

※¹2022年8月に創立95周年を迎え、+5円の記念配当を実施。

※²株式分割により、「1株当たり当期純利益」は株式分割後の金額を記載。また、「1株当たり配当金」は中間配当金と期末配当金との単純合算ができないため記載していない。なお、株式分割を考慮しない場合の各項目は（ ）内に記載。

※³対前期比は、株式分割を考慮しない場合で比較。

< 免責事項 >

当資料に記載されている内容のうち、過去の事実以外のものは、いくつかの前提に基づいた見通しであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
総務部 広報 I R 課
079-223-1241 (代表)
ir@shinkibus.co.jp